

ベストなプレーが
日々成長していき
たい

堺ブレイザーズ



関田 誠大 選手

(せきた・まさひろ)

1993年東京都生まれ。ポジションはセッター、背番号11。日本代表での背番号は12。スパイカーとの相性の良さや相手の意表を突くトスワークが光る。



日本代表に選ばれたときの気持ちを教えてください。

子どものころはテレビのなかの人たちでした。でもバレーボールを続けていくうちに夢がどんどん近づいていき、実際代表に選ばれたときはうれしかったですね。子どもたちに夢や感動を与えられるようなプレーを見せたい。そして前の世代の人たちが残してきた成績や活躍を上回るプレーで、僕たちが歴史をつくっていきたいと思っています。

今年4～5月の自粛中はどんな練習をされていましたか？

コンディションを落とさないことに重点を置いて、堺ブレイザーズや日本代表のコーチからもらったメニューをこなしていました。試合状況に応じた最高のトスを上げられるように、家のなかでも直上パスを1日1,000回繰り返していました。



オリンピックに向けて抱負をお聞かせください。

先のことを考えると不安になることもあります。今できることを全力でやるのが大事だと思っています。出場するチャンスを得ていることを自覚して、いかにこの時期に成長できるかを考えて、これからもトレーニングに励みます。

日本はチームの組織力が大きな武器です。セッターは試合中に一番ボールを触るポジションなので、コートでは常にアタッカーやリベロと声をかけ合っています。さらに監督やスタッフともコミュニケーションを深めて、組織力アップに貢献していきたいですね。

山本 智大選手

(やまもと・ともひろ)

1994年北海道生まれ。ポジションはリベロ、背番号20。日本代表での背番号は18。リーダーシップを発揮し、チームに安定をもたらす。



日本代表に選ばれたときの気持ちを教えてください。

日本代表は小さいころからの憧れでした。代表入りしてオリンピックへの想いはますます強くなりました。ホームでのオリンピックは一生に一度しかありません。ぜひメダルを獲りたいですね。



今年4～5月の自粛中はどんな練習をされていましたか？

自分でトレーニングを続けていました。例えばランニングは1時間ゆっくり走ること Alternatively、坂道ダッシュ15本とか、その日によって内容を変えていました。マスクをして走っていたので、とてもキツかったです。

オリンピックに向けて抱負をお聞かせください。

リベロは選手層が一番厚いポジションです。他の選手が持っていないものを武器としてやっていかなければ、メンバー入りはできません。自分の武器はディグ(スパイクレシーブ)です。世界のスパイクは強くて速いので、確実にたくさんボールを拾って、チームに貢献したいと思っています。自分の持っている力を出し切りたいですね。

オリンピックは1年延期となりましたが、目指すところは変わりません。軸をぶらさず、ネガティブに思うのではなく、まだ1年成長できる時間があるとポジティブに考えて、今年より来年良いプレーができるように日々成長していきたいと思っています。



日本製鉄が支援している堺ブレイザーズは、大阪府堺市に本拠地を置く男子バレーボールチームで、多くの日本代表選手が在籍している。そのうち司令塔の役割を期待されるセッターの関田誠大選手と、守りの要となるリベロの山本智大選手に、日本代表選手としての想いを語っていただいた。



BLAZERS

SAKAI WAKAYAMA KITAKYUSHU